D 83　衣服のレンタルに対する態度と被服行動との関連について

奈良女大家政　樋泉傲子　西南女学院短大　○戸田卯子
奈良女大家政　中川早苗

【目的】衣生活の合理化・ファッション化志向を反映して、街にはレンタルブティックの数が年々増加している。1987年に私達が行った晴れ着の調査においても、その調達方法にレンタルと答えた者が数多くみられた。そこで本研究では、このような衣服のレンタルが将来定着するのか、あるいは一時の流行で終わってしまうのかを検討するデータを得るために、衣服のレンタルに対する評価および被服行動との関連について考察を試みた。

【方法】近畿圏および九州圏に居住する女性 700名（学生 380名、一般女性 320名）を対象に1991年12月、配票留置法による質問紙調査を行った。有効回収数 564名（学生 316名、一般女性 248名）、回収率 80.6 %。主な質問項目は、被説明変数として、衣服のレンタルに対する態度およびレンタルの利用度、説明変数として、生活態度、着装態度、衣服の購買態度などである。データの集計・分析には、単純およびクロス集計、因子分析（主因子法・バリマックス回転）、クラスター分析（ワード法）の手法を用いた。

【結果】衣服のレンタルに対する態度は、「場面に適した衣服を選べる」「同じものを着ないですむ」「雰囲気の違うものが着られる」「大胆なものが着られる」などファッション性の項目や、「手入れの手間が省ける」「収納場所が少なくてすむ」「安価で着られる」などの合理性の項目で評価が高く、因子分析の結果でも、主要な因子として、第１因子にファッション性、第２因子に合理性の２因子が得られた（寄与率77.5%）。その因子得点をもとにクラスター分析を行った結果、４クラスターに分類され、それぞれのクラスターと被服行動とのクロス集計を行った結果、項目間に関連が見られた。